

RAM Parity

1.動作概要

TeraTermから入力される文字列をライトコマンドを使ってRAMへパリティを付加して保存します。

リードコマンドでRAMへ保存したデータをパリティチェックを行い、TeraTermへ表示します。

2.基本動作

Teraterm 画面「command >」と表示されるので、下記のコマンドフォーマットに従い、コマンドを入力します。Write コマンドの場合は、「write data > 」の後に書き込んだデータをteratermに表示します。Read コマンドの場合は、「read data > 」の後に書き込まれたデータをteratermに表示し「command >」表示に戻ります。Readコマンドは必ずwriteコマンドを実行した後に使用してください。パリティエラー発生時はParity Errorを表示します。

・コマンドフォーマット：

write コマンド	
write_ X	X:任意の文字
read コマンド	
read	

UART設定

TXD	:PK1
ボーレート	:115200(bps)
データ	:8(bit)
パリティ	:なし
ストップビット	:1(bit)
フロー制御	無し

3.出力例

command > write A	write コマンド A (1byte) RAMに保存し、書き込んだデータを表示
write data > A command > read	read コマンド RAMに保存されているデータを読み込んで、表示